

〔太平記三十九〕光嚴院禪定法皇行脚御事

經日紀伊川ヲ渡ラセ給ヒケル時、橋柱朽テ、見ルモ危キ柴橋アリ、御足冷ク御肝消テ、渡リカネサセ給ヒタレバ、橋ノ半ニ立迷テヲハスルヲ、誰トハ不知、如何様此邊ニ臂ヲ張ツ、作リ眼スル者ニ、テゾアル覽ト覺ヘタル武士七八人、跡ヨリ來リケルガ、法皇ノ橋ノ上立セ給ヒタルヲ見テ、此ナル僧ノ臆病氣ナル見度モナサヨ、是程急ギ道ノ一ツ橋ヲ渡ラバトク渡レカシ、サナクバ後ニ渡レカシトテ、押ノケ進ラセケル程ニ、法皇橋ノ上ヨリ被押落サセ給ヒテ、水ニ沈マセ給ヒニケリ、

〔北條五代記九〕三浦介道寸父子滅亡の事

荒次郎浦○三は廿一歳、器量二つがら人にすぐれ、長七尺五寸、黒髮有て血眼なり、手足の筋骨あらあらしく、八十五人が力をもてり、

〔陰徳太平記六十二〕三木城没落附長治已下自裁之事

長治大ノ眼ニ角ヲタテ、左ジツルトテ何許ノ命ヲカ見ン、

〔續視聽草三集二〕長助眼玉

本所松坂町家主庄兵衛店義右衛門方同居長次郎事

長助

子十四歳

此者儀羽州新庄領浪立村百姓林助孫ニ而同村百姓江養子遣候處、四五年以前右眼出這入いたし、右眼拔出候節者、鳥目五貫文程之目方有之候品者、右眼江掛候、但し拔出候眼者、壹寸四方位有之候、

右小倉小三郎相糺候趣ニ而遠山方聞置、遠山ハ役所江子十月朔日屆、

〔倭名類聚抄耳目〕鰐

文字集略云、鰐

綿反、和名久

呂萬奈古、瞳子也、

〔箋注倭名類聚抄耳目〕醫心方烏珠同訓、今俗呼久路女、白眼呼之路女、○

中所引文廣韻同、按方言、